



細菌スクリーニング導入後の血小板製剤の供給について

日頃より輸血療法の適正な運用にご協力いただき、誠にありがとうございます。このたび血液製剤の安全性向上を目的として、血小板製剤において細菌スクリーニング検査を導入することといたしました。これに伴い発注等に関するルールを変更させていただきますので、以下のとおりご案内いたします。

1. 現行製剤と細菌スクリーニング導入製剤の切り替え日について

1.1 通常PC

切り替え日

	7/26 (土)	7/27 (日)	7/28 (月)	7/29 (火)	7/30 (水)	7/31 (木)	8/1 (金)	8/2 (土)
現行製剤	採血	供給可						
		採血	供給可		使用可			
細菌SC製剤	採血				供給可			
		採血			一部供給可	供給可		
			採血			一部供給可	供給可	

7/30(水)より細菌スクリーニング導入製剤を供給いたします。7/29(火)以前に納品した現行製剤で7/30(水)に有効期限を迎える血小板製剤については、7/30(水)にも使用していただけます。

1.2 WPC

切り替え日

	7/27 (日)		7/28 (月)		7/29 (火)		7/30 (水)	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
現行製剤	採血		洗浄	供給可			使用可※	
				洗浄	供給可		使用可※	
細菌SC WPC	採血				洗浄		供給可	
			採血			洗浄		供給可

※最終有効年月日時時まで使用可

2. 発注期限について

血小板製剤におきましては引き続き原則予約制となっておりますが、細菌スクリーニング導入に伴い発注期限を変更しております。詳細につきましては最寄りの血液センターにご相談ください。なおWPCとHLA-PCについては、検査結果や製造時等の何かしらの原因で供給できなくなる場合があります。その際は供給元の血液センターよりご相談させていただきます。

3. キャンセル期限について

最寄りの血液センターへご相談ください。

細菌スクリーニング検査の導入により、より安全で信頼性の高い輸血療法の実施が可能になると期待されます。円滑な運用のため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(中四国ブロック血液センター 需給管理課 小山 龍太郎)

“課題先進県”にある高知県赤十字血液センターが行う 若年層への「献血出前講座」

高知県は、人口減少・少子高齢化の「課題先進県」と呼ばれることがあります。「課題先進県」とは、日本全体が将来的に直面するであろう様々な社会課題が、他の地域よりも早く顕在化している県を指す言葉です。これらの地域は、いわば「日本の縮図」であり、そこで起きている問題やその解決に向けた取り組みは、今後の日本全体の未来を考える上で重要なヒントを与えてくれるとされています。

本県では特に人口減少と高齢化の進行が顕著で、実際、人口は2024年度に約1万人減少し65万人を下回りました。また世代別人口割合も0～14歳(年少)および15～64歳(生産年齢)は全国でもワースト5に入る低水準である一方、65歳以上(老年人口)は全国トップクラスとなっており、全国に先駆けて少子高齢化が進んでいます。

このように献血可能人口が減少している中でも輸血用血液の確保は不可欠であり、その対策の一つとして若年層への献血推進があげられます。高知県赤十字血液センターでは、小・中・高等学校・専門学校および大学を対象とした「献血出前講座」の実施を通じて、献血への関心を高める取り組みを行ってきました。

小学校では、主に夏休みの児童クラブ(学童保育)で講座を行います。対象児童の多くが低学年であるため、クイズ、献血キャラクター「けんけつちゃん」を使った工作、血液製剤を運ぶ献血運搬車の見学などを盛り込むことで、楽しみながら「けんけつ」に興味を持ってもらうことを狙いとしています。

中・高等学校・専門学校では、輸血経験者の映像を視聴していただいた後、血液や献血に関する基礎講座に加え、輸血用血液製剤の医療機関への供給から患者さんへの使われ方という、少し踏み込んだ内容の講義を実施します。また献血バスの配車にご協力いただける学校では、実際に献血を経験していただいています。

大学では、昨年度に初の試みとして、高知大学医学部の1年生を対象に初年次教育の一環として、献血や血液事業に関する出前講座を当センター所長が行いました。受講生からは、「献血について知らないことが多くあった」「献血に行ってみたい」といった声と共に、「輸血用血液の使用を抑えるにはどうしたらよいか」といった将来の医療者ならではの議論も交わされました。医学生への出前講座は、献血者確保の面はもちろんのこと、将来輸血を指示・使用する立場となる医学生に血液製剤の適正使用について考えてもらう契機にもなったのではないかと考えています。

こうした出前講座は献血推進の取り組みの一部に過ぎず、その他にも献血に関する情報発信や、より多くの方に献血に足を運んでいただくための環境・機会の整備など、様々な対策が必要です。今後も若年層に献血や血液事業について理解を深めていただき、献血への協力に繋がるような方策を探っていきたいと考えています。

